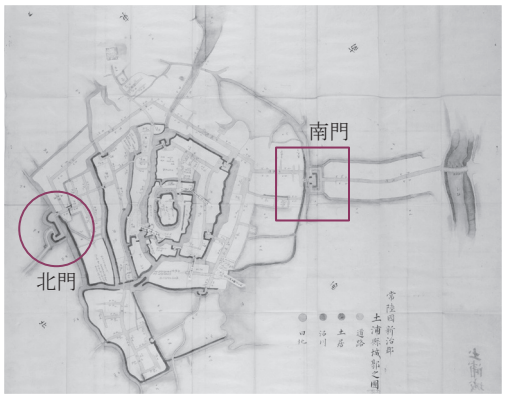
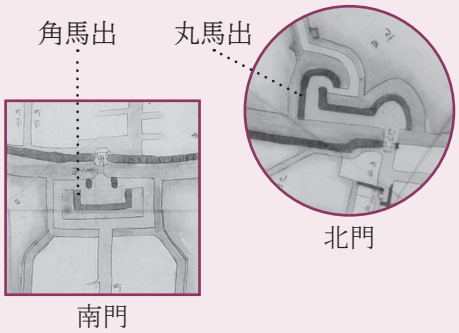
土浦発 未来への伝承 160

# 土浦城の馬出（うまだし）―2枚の土浦城絵図から―

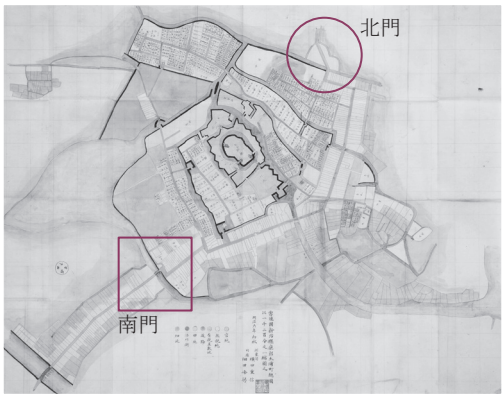
▼明治４年「常陸国新治郡土浦県城郭之図」（当館所蔵）



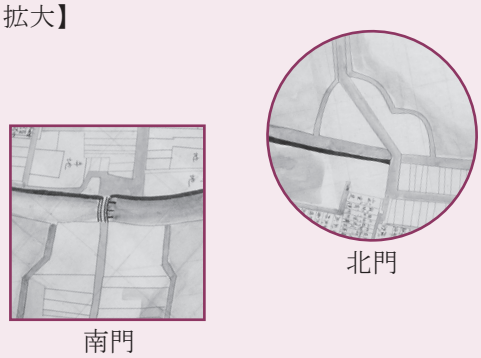

【拡大】




▼明治６年「常陸国新治県庁郭土浦町総図」（当館所蔵）




【拡大】




土浦城を描いた2枚の絵図です。右は明治4（1871）年の「常陸国新治郡土浦県城郭之図」、左は明治6年の「常陸国新治県庁郭土浦町総図」です。

明治4年の絵図は江戸時代の面影を残した土浦城が描かれています。北門付近には半月型の丸馬出が描かれています。馬出は敵の侵入を阻むための防御および攻撃の施設です。北門の丸馬出は、S字状の2つが連続して築かれたところに特徴があります。また、南門付近には長方形の角馬出が描かれています。

一方、明治6年の絵図をみると、少し様子が異なります。北門付近に築かれていた二重の丸馬出は無く、斜めに貫く道が描かれています。また、南門付近の角馬出も描かれていません。これらの馬出は明治6年に撤去され、姿を消してしまいました。

では、南北の馬出はいつ誰が築いたのでしょうか。これらの馬出は、貞享2（1685）年から同3年にかけて、城主松平信興（のぶおき）が築造を命じました。その指揮に当たったのが、山本菅助晴方（かんすけはるかた）です。

晴方は、甲斐国（現山梨県域）の武田氏に仕えた山本菅助（初代）の流れを汲む人物です。初代菅助は、江戸時代に創作された「武田二十四将」の一人として、「山本勘助」の名で知られました。晴方は、初代から数えて4代目に当たります。天和2（1682）年に松平信興の家臣となり、同年には土浦城の「普請惣奉行（ふしんそうぶぎょう）」に任じられました。晴方の指揮により、二重丸馬出と角馬出が築造されました。土浦城の来歴や松平信興の逸話などを記した「土浦城記」にも、天和2年に信興が、山本菅助に指図して南北の馬出や城内の土塁や堀などを造らせたことが記されています。

松平信興が土浦城主を務めたのは、天和2年から貞享4年までのわずか5年間ですが、信興、そして晴方の働きにより、土浦城の守りが固められました。南北の馬出は撤去されたため、現在ではその姿をみることはできません。しかし、当時の絵図を比較し、関連資料を探ることで、かつての城の姿やそれを取り巻く「物語」を紐解くことができます。

博物館では3月14日から5月6日にかけて、第41回特別展「土浦城―時代を越えた継承の軌跡―」を開催しています。戦国時代から現代に至るまで、土浦城が受け継がれてきた軌跡を紹介します。今回紹介した2枚の絵図のほか、山本菅助晴方に関する史料や、「土浦城記」の見どころなどを紹介しています。ぜひご覧ください。

問 市立博物館（☎824・2928）